

中核市サミット 宇都宮 宣言 2023

中核市は、地域の中核都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

デジタル化の進展や新型コロナウイルス感染症等による人々の価値観の変容、脱炭素社会構築の社会的要請の高まりなどにより、社会・経済環境は急速に変化し続け、社会課題・行政課題がますます複雑化・多様化する中、私たち中核市は、50年先、100年先に生きる「未来世代」への責任を果たすため、先代から引き継いできた家族や地域の絆、人々の営みはもちろんのこと、長い時間をかけ磨き上げられてきた文化や地域資源、安全・安心・便利な生活を支えるために築いてきた都市の基盤などを、政策・施策の実践によりつないでいくことが求められています。

本サミットでは、「未来世代への責任と実践 ～夢や希望がかなう 中核市を目指して～」をテーマに、「子どもを守り『未来世代につなぐ』まちづくり」「脱炭素化で『未来世代につなぐ』まちづくり」に焦点を当てて議論を行い、次のとおり、全国の中核市が連携して取り組むこととしました。

- 1 人口減少・人口構造の変化が進む中、私たち中核市は、将来にわたって活力ある社会・経済を維持していくため、子育てしやすい環境づくりや、子どもの健全育成、子どもの権利の保障などの取組により、「子どもを守り『未来世代につなぐ』まちづくり」を推進してまいります。
- 2 気候変動による自然災害をはじめ地球規模で環境問題が深刻化する中、私たち中核市は、日常生活や社会経済活動等における脱炭素化を進めるため、環境・エネルギー問題に対応した取組などにより、「脱炭素化で『未来世代につなぐ』まちづくり」を推進してまいります。

中核市62市の人口は約2,275万人となり、全国における存在感と地方自治の理念の実現に向けた中核市の責任は、今後もより一層大きくなっていきます。

私たち中核市は、未来世代への責任を果たすため、それぞれの地域の特性を生かしながら、政策・施策を実践することにより、持続可能なまちづくりを推進することで、夢や希望がかなう中核市を目指していくことを、ここに宣言します。

令和5年11月1日

中核市市長一同